

JOMF 派遣医師便り (2018. 3)

◆マニラ◆

フィリピンのギランバレー症候群はジカ熱から？

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

最近、ギランバレー症候群と診断された患者さんが2名おられました。患者さんの詳細についてはプライバシー保護の観点から述べませんが、ジカ熱が関わって発症した可能性が否定できないと考えています。

ジカ熱は蚊に刺されて感染・発症し、その症状は発熱、頭痛、関節痛、発疹、眼球結膜充血などが起こり、合併症としてギランバレー症候群が発症することもある疾患です。

WHOによればフィリピンはジカ熱流行において「カテゴリー2：2015年以前にウイルス伝播が確認又は2015年以降新たに感染事例が報告され、中断なく感染伝播が起きている地域。妊娠中の女性に対して、“渡航しないよう呼びかける地域”」とされています。

フィリピンでは当院を含めて一般病院ではジカ熱診断のための検査はできません。ジカ熱検査を希望する患者さんはフィリピン熱帯医学研究所（アラバン地区に在る国立の研究施設）に出向き検査を受けることが必要です。

ギランバレー症候群は乳児から高齢者まで発症する疾患で、ウイルスやその他の感染症の発症後に起こることが多い疾患とされています。重篤な麻痺を起しうる末梢神経疾患で呼吸不全や生命を脅かす不整脈を起こすこともあります。

ギランバレー症候群を疑うべき臨床症状は、数週間以内に始まった両側性脱力、鷄歩（アヒル歩行）、大腿や腰の痛み、知覚異常、深部腱反射消失などです。当地ではジカ熱と思われる症状後にこれらの症状を伴う患者さんが来院した場合は「ジカ熱に伴うギランバレー症候群」も鑑別診断として考えることが大切です。